

山の上のイエスの姿

マタイによる福音書 17 : 1 - 8



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年2月19日

大齋節前主日

聖光教会にて

今日、大斎節前主日の特禱の初めに、わたしたちはこう祈りました。

「神よ、あなたはその独り子の受難の前に、聖なる山の上でみ子の栄光を現されました。」

受難の前に、山の上でみ子の栄光が現れた。今日はまず主イエスのその栄光の姿を見つめたい。そして今週水曜日から始まる大斎節の間もずっと、主イエスを見つめ続けたいと願います。

「受難の前に」という言葉が気になります。ただ時期的にそうだというのではなく、神の独り子の栄光の輝きは受難と関係している。主イエスのご自分の苦難を引き受ける決意をされたからこそ、栄光の輝きを放たれたのではないのでしょうか。

さて今日の本文を読んでいきましょう。

「六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。」マタイ 17:1

ここにはイエスの弟子たちに対する強い意志が働いています。日本語の訳だけでは十分に汲み取りにくいのですが、ちょっと強めに訳し直しますと、イエスはこの3人の弟子たちを「捕まえて」、彼らを高い山の中に導き入れた（運び込んだ）、というのが元のニュアンスです。イエスは決意して、この3人を高い山の中へと連れて登られた。それは普通経験できない何か大事なことを、弟子たちに経験させよう、というイエスの願い、意図が

あるのです。

ペテロ、ヤコブ、ヨハネの3人の弟子たちは、イエスに導かれて登った高い山の上で何を経験したのでしょうか。

「イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。」 17:2

第1に、3人の弟子たちはイエスの姿の変容を見ました。

ここではイエスの変化が3重に描かれています。「イエスの姿」が変わった。その「顔」が太陽のように輝いた。その「服」が光のように白くなった。

これはただイエスの外観が変化したというだけではなく、イエスの本性、本質が現れ出たということです。一言で言えば「聖なる方」、「神の愛に満ちた方」であるイエスの本質が輝き出た、ということです。

この方の聖なる輝きに照らされて、弟子たちは清められ、イエスの愛に満たされます。6日前、ペテロはイエスに対して「あなたはメシア、生ける神の子」と告白したのですが（マタイ16:16）、その信仰告白をイエスが喜んではっきりと肯定してくださるのを、ここから感じます。

「見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。」

17:3

弟子たちは、過去の聖書の最重要人物モーセとエリヤが現れて、イエスと語り合っているのを見ました。第2の経験です。

イスラエルの信仰の歴史を代表するモーセとエリヤ。かつて神さまの救いの働きを命がけで担った二人が今、ここに現れてイエスと語り合っている。それではっきりわかります。どんなにイエスがある人たちから非難され迫害されたとしても、間違いなくイエスは神から来られた方であるということ。神の人、モーセ、エリヤの働きをイエスが継承しておられる。あらためてイエスに対する深い信頼感が起こってきて、喜びと平安が与えられます。

イエスの栄光の輝きを見、その働きの確かさを確認できて、弟子たちはとても幸せでした。ペテロは感動のあまりイエスにこう言います。

「主よ、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」17:4

ペテロがこう話しているうちに――

「光り輝く雲が彼らを覆った。すると、『これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け』という声が雲の中から聞こえた。」17:5

第3の経験です。弟子たちは神の声を聞きました。その声の内容は弟子たちの思いを確証する（裏付ける）ものでしたが、彼らは神の臨在とその声に非常な恐れを感じました。

「弟子たちはこれを聞いてひれ伏し、非常に恐れた。」 17:6

初めに、イエスが3人の弟子たちを連れて山に登られたのには目的、意図があったと言いましたが、このようにしてその目的は実現したのです。

第1に、イエスの本質、本性を示すこと。弟子たちは光輝くイエスを見て、聖なる方、また神の愛に満ちたイエスを知りました。

第2に、モーセとエリヤの出現をとおして、イエスが神の救いの業を先人から継承し担っておられることを確信しました。

そして第3に、弟子たちは神の臨在を経験し、神の声を聞きました。

この山の上での出来事、主イエスの変容のことは、マタイ、マルコ、ルカの三つの福音書に書かれています。けれども、マルコとルカは語らず、マタイだけが伝えていることがあります。さっきの続きの7節です。

「イエスは近づき、彼らに手を触れて言われた。『起きなさい。恐れることはない。』」 17:7

恐れおののいて地に伏している弟子たちにイエスは働きかけられます。ここは丁寧に確かめましょう。三つの動詞、主イエスの三つの働きかけが記されています。

イエスは「近づき」「彼らに手を触れて」「言われた」。

イエスはおののく弟子たちを放置なさない。彼らに近づかれます。優しくも力強い手で彼らに触れられます。そして言葉をかけられます。

ここまでずっと3人の弟子たちに起こったこと、彼らが経験したことをたどってきました。けれどもこの7節は、イエスがわたしたちに対しても、なしてくださることなのです。

イエスはわたしたちに近づき、わたしたちに手を触れ、そして言われます。

「起きなさい。恐れることはない」

わたしたちに近づかれるイエスを感じたい。わたしたちから立ち去って行かれるのではなく、イエスはわたしたちに近づかれる。わたしたちを愛して、わたしたちに触れられる。わたしたちに手を置かれる。イエスの手のぬくもり、力強さ。イエスはその両手で肩に触れてくださったら、わたしたちはどんなに安心でしょうか。

そしてわたしたちも主イエスの声を聞きます。

「恐れるな。起きなさい」

マタイ福音書は今日、このことをわたしたちに伝えています。

祈ります。

主イエスさま、山の上で輝く姿を示されたあなたのみ姿を、わたしたちにも見させてください。弟子たちに近づき、手を触れられたように、わたしたちに近づき、わたしたちに手を触れてください。傷んだところ、病んだ心を、あなたの愛の手が包んでください。さまざまに迷い悩むわたしたちから恐れを取り除き、立ち上がらせてください。わたしたちの救いのために苦難を引き受けられたあなたのみ名をたたえます。アーメン